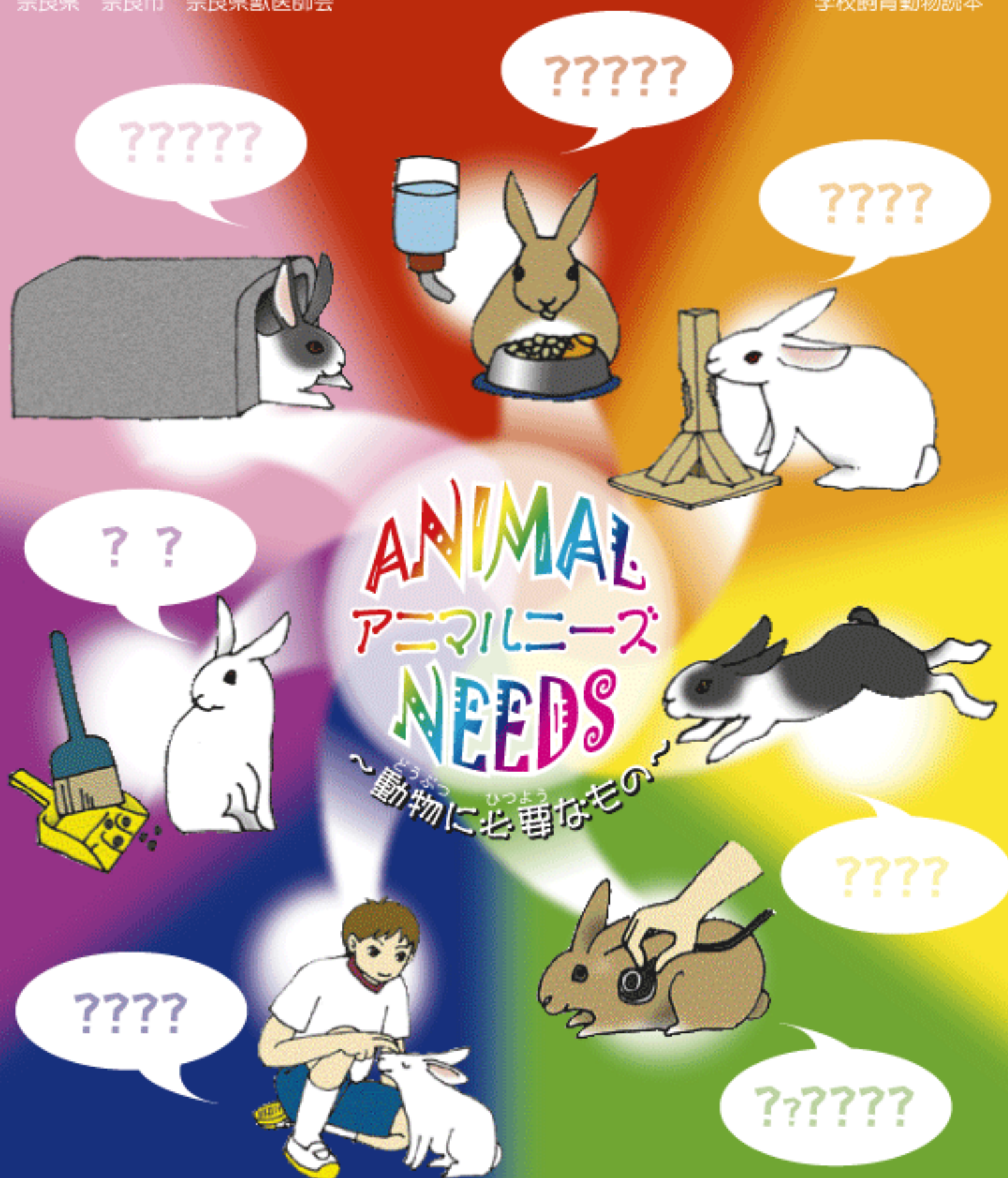




小学校 年 組 名前

「ANIMAL」= 動物 「NEEDS」= 必要なもの

はじめに

地球上の全ての生物は土 水 大気という地球環境の中で太陽の光をエネルギーとして生きています。ある環境の中で、生物が互いにかかわりあひながら調和して暮らす仕組みを生態系といいます。

山や平地や湿地といった環境のちがいによって生態系は大きく異なります。

私たち人間も、その生態系のメンバーです。生態系の中ではそれぞれが重要な役割を果たしてお互いにかかわりあうことで生物と環境のバランスをとっています。ですから、生態系の中のメンバーのどれか一つが欠けるとバランスがくずれ、地球環境全体に影響が出てしまいます。



動物に必要なものって何だろう？

学校の動物は生態系から切りはなされて生きています。自然の中では自分で手に入られるものでも、飼育小屋の中にはないものがあるので、足りないものは人間がおぎなう必要があります。表紙の絵は動物に必要な七つのものを表しています。「？」にあてはまる言葉を考えてみましょう。

動物に必要なもの → 表紙 (1ページ)

はじめに生態系について知ろう → このページ (2ページ)
目次

観察

- ウサギをよく観察してみよう → 3ページ
- ニワトリをよく観察してみよう → 4ページ
- 胃袋が歯のかわり → 4ページ
- 体の特徴と役割/体温調節のしくみ → 5ページ
- ウサギの耳はなぜ長い？ → 5ページ
- 犬はどうして舌を出す？ → 5ページ
- 冬の鳥が太って見えるのはなぜ？ → 5ページ
- 体の特徴と役割/見え方のちがい → 6ページ
- 片目で見てみよう → 6ページ
- 動物社会のルール → 7ページ
- ウサギの社会 → 7ページ
- ニワトリの社会 → 7ページ
- ひとりが好きなハムスター → 7ページ
- しぐさと気持ち → 8ページ
- ウサギのいろいろなしぐさ → 8ページ
- ニワトリのいろいろなしぐさ → 8ページ
- 犬のいろいろなしぐさ → 8ページ

日常の管理

水やり → 9ページ
エサやり → 9ページ
そうじ → 9ページ
体の手入れ → 9ページ
動物に名前をつけよう → 9ページ

責任

飼育のヒント → 10ページ

足休め → 10ページ

飼育場所の管理 → 11ページ

小屋の管理 → 11ページ

温度の管理 → 11ページ

病気のサイン → 12ページ

繁殖制限 → 13ページ

オスとメスの見分け方 → 13ページ

コントロールしないとどうなるでしょう？ → 13ページ

ふれあい

近づいてみよう → 14ページ

さわってみよう → 14ページ

近づくとき → 14ページ

さわるとき → 14ページ

だいてみよう → 15ページ

えさをやろう → 15ページ

水を忘れずに！ → 15ページ

ずっとずっと友だちだよ → 裏表紙 (16ページ)

ウサギをよく観察してみよう

耳

長くてよく聞こえます。
自由に動かすことができます。
血管がたくさん通っています。

鼻

敏感です。
いつもピクピクさせています。

あご

あごににおいを出す部分があります。
なわばりににおいをこすり付けます。

前足

後足に比べて短い。
穴を掘るのに便利なたがった爪。
指は5本です。



うわくちびるが分かれていて、別々に動かすことができます。

歯

全部で28本あります。
一生のびつづけます。
上の前歯は裏側にも2本あって二重になっています。

後足

大きくて力強い。
すぐれたジャンプ力。
指は4本です。
足の裏にも毛がはえています。

フン

コロコロしたかたいフンとぶどうの
ふさのようなやわらかいフン(盲腸
便)をします。
盲腸便は栄養価が高いので自分でお
しりから直接食べてしまいます。

注意!!

盲腸便が床に落ちて
いる時は栄養バランス
や体調が悪い場合が
あります。



ニワトリをよく観察してみよう

とさか

皮膚が厚くなったものです。赤い色は血の色がすけて見えているためです。体調の悪い時には白っぽくなることがあります。

羽

表面のつるつとしたかたい羽(正羽:フェザー)と、その下のふわふわしたやわらかい羽(綿羽:ダウン)の二種類があります。正羽は飛ぶための羽で、綿羽は体温を維持するための羽です。

年に一度(ふつうは秋)羽が大量に抜けて生え変わります。これを換羽(トヤ)といい、この時期の鳥は体力が落ちるので、注意して世話をしましょう。

くちばし

ずどくとがっていてエサをつついてくだくのに便利です。ケンカをするときには武器になります。

注意!!

黒いものをつつくせがあります。目をつつかれないように気をつけましょう。

目

くらいとよく見えません。

足

がんじょうで地上を歩くのに適しています。地面を掘り返してエサを探すためにずどい爪がついています。ケンカをするときには武器になります。表面の皮膚はうろこのようになっています。



フンと尿

ニワトリはフンと尿とを総排泄口という一つの穴から同時に出します。鳥類の尿は濃縮されていて、白いクリーム状です。卵もこの総排泄口からうみます。

胃袋が歯のかわり!?

ニワトリの口には歯がありません。エサはくちばしでくだいたものをそのまま丸のみにして、筋胃という特別な器官ですりつぶします。

そのう
飲み込んだものをためておく。

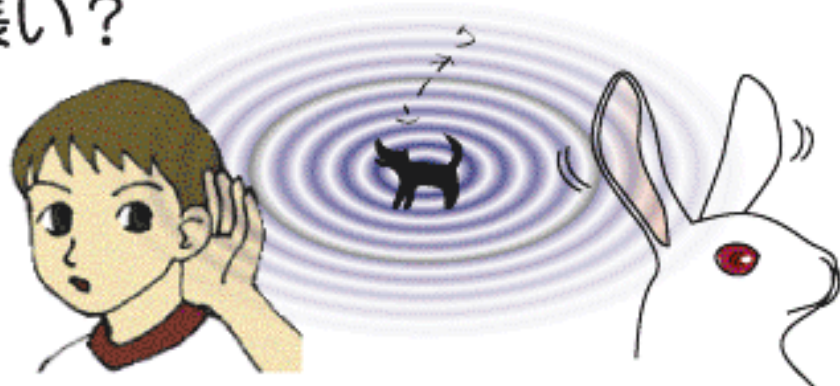
せん胃
消化液と混ぜあわせる。

筋胃
歯のかわりに、たまっている砂や小石ですりつぶす。

ウサギの耳はなぜ長い？

①敵から身を守るため

敵に早く気づいて逃げるためには耳がよく聞こえてはなりません。ウサギの耳は遠くの小さな音でもキャッチできるように長いのです。小さい音を聞く時に耳の後ろに手を当てるのと同じしくみです。



②体温の調節のため。

人は体温が上がると汗をかいて体の熱を逃がしますが、ウサギは汗をかけません。汗をかくかわりに耳から熱を逃がしています。このため、ウサギの耳はうすくて血管がたくさん通っています。ピンク色に見えるのは血管がすけて見えているからです。

体温調節のしくみ

人の場合



ウサギの場合



犬はどうして舌を出す？

暑い時や運動した後、口を開け、舌を出してたくさん呼吸をします。(=パンティング)これによって犬は体温を下げます。



冬の鳥が太って見えるのはなぜ？

鳥やウサギは、体温を逃がさないように羽や毛を逆立てて空気の層を厚くしたり、冬用の毛に生え変わったりします。こうすることによって、体のまわりにできるだけ多くの暖かい空気の層を作り、寒さから身を守っています。また、フラミンゴが片足で立つのも足から体温が逃げるのを防ぐためです。

鳥やウサギが太って見えるのは寒いと感じている証拠です。飼育環境の温度を調節するめやすとして、よく観察しましょう。



見え方のちがい

動物は、自然の中でそれぞれの生活に適した目を持っています。

草食動物（ウサギなど）

自分達をねらっている肉食動物を早く見つけるのに適した目を持っていて、ほとんど真後ろまで見える。立体視（★）できるのは正面の一部分だけ。



肉食動物（ネコなど）

見える範囲は草食動物よりせまいが、立体視できる範囲が広く、獲物の位置や動きを正確に知るのに適している。



- 片目で見ている範囲
■ 立体視できる範囲

人の場合（参考）



★立体視とは、両目で見ることによって、見えているものまでの距離や、どんな形をしているのかを見分けることができる見え方のことです。



片方の目で見よう

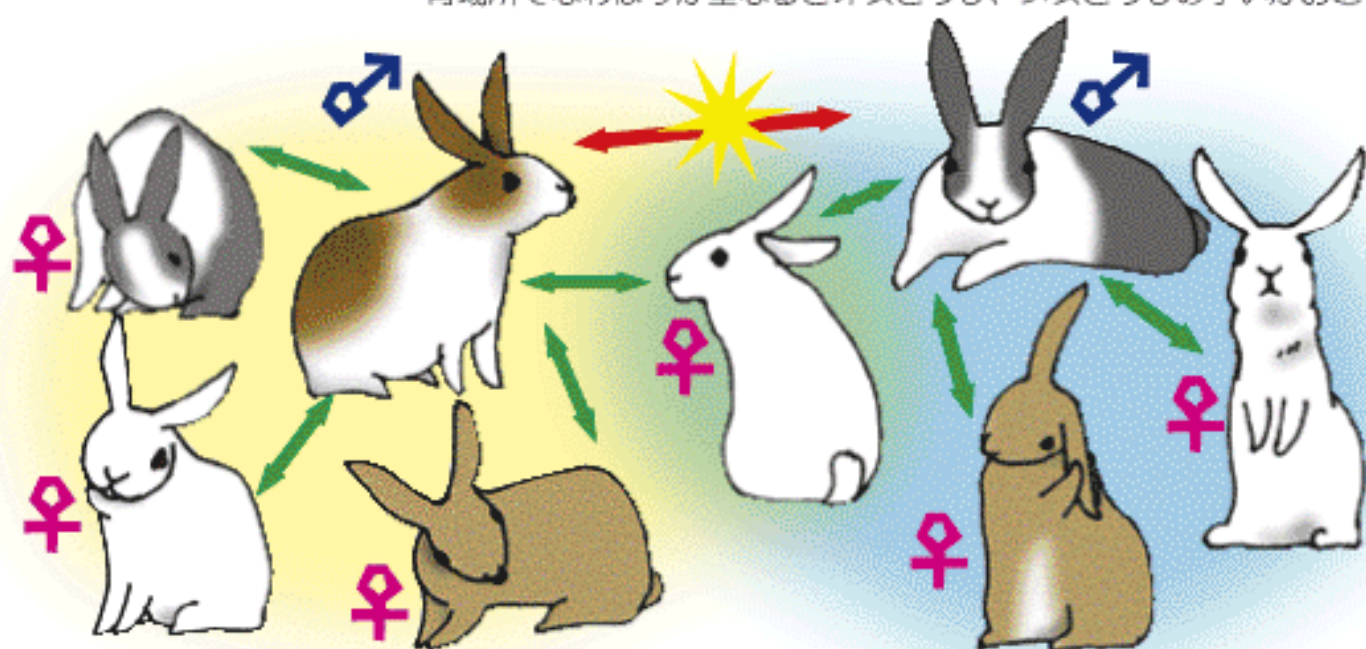
片方の目を手でおおって、はして豆をつまもうとしても距離が正確につかめなためうまくつまめません。距離を正確に知るために立体視が必要なことがよくわかりますね。



動物社会のルール

ウサギの社会

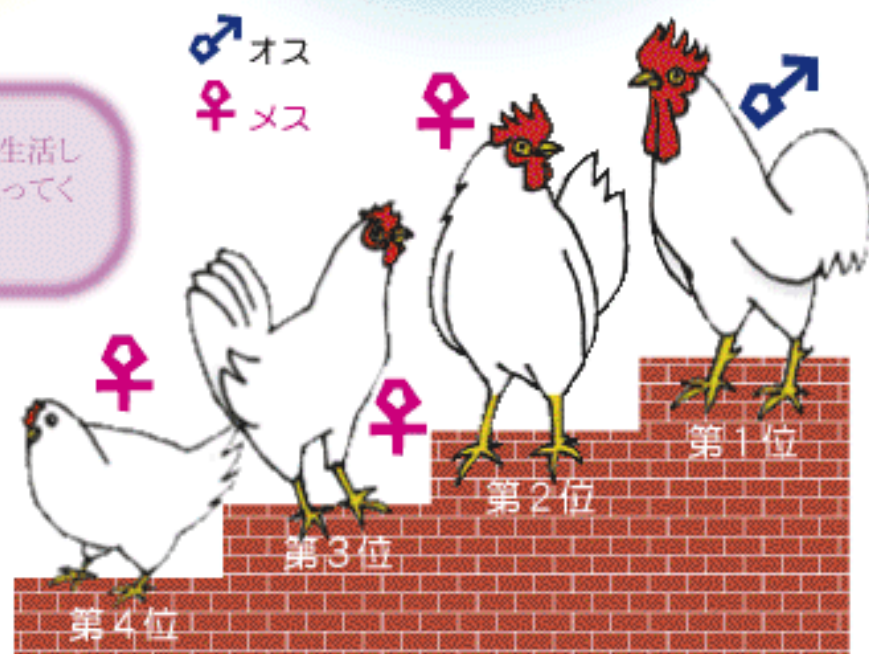
強いオスと複数のメスで一つのなわばり（★）ができています。せまい飼育場所でなわばりが重なるとうすどうし、メスどうしの争い（あらそい）がおこります。



★なわばりとは群れで暮らす動物が生活している場所のこと。そこへ他の動物が入ってくると追い出して自分の場所を守ります。

ニワトリの社会

一羽のオスと複数のメスとヒヨコ。家族のなわばりに他のオスが入ってくるとなわばりの中の第一位のオスが追い出します。



ひとりが好きなハムスター

ハムスターはふだん一匹ずつの生活をしていて、赤ちゃんを作る時だけ他のハムスターと出会います。せまい場所でハムスターをたくさん飼うと、ケンカがたえなくなります。



キー
オス同士だけではなく、メス同士や親子で飼っていても大人になるとケンカを始めてしまいます。

ウサギのいろいろなしぐさと気持ち

リラックス



体の力をぬいて
寝そべる(リラックス)



暑いときは?

リラックスしている時と同じように寝そべりますが、できるだけおなかをのびして冷たい地面につけ、鼻を閉じて息をしています



毛づくろい
(緊張をほぐす)



立ち上がって
耳を動かす
(警戒)



足で地面を踏み鳴らす
(怒り、仲間に
危険を知らせる)

緊張

ニワトリのいろいろなしぐさと気持ち

リラックス



羽づくろい
(リラックス)

寒いときは?



警戒している時と同じように羽をさかだてますが、しゃがんで、できるだけ熱が逃げないようにじっとしています



毛を
さかだてて
のび上がる
(警戒)

緊張

犬の気持ち

犬も体を使っていろいろな気持ちをあらわします。耳としっぽに注目しましょう。



うれしい

うれしいな



怒り

あこってるよ



こわい

こわいから
近づいたら
かむよ

ごめん
なさい



水やり

毎日やろう

毎日新鮮な水にとりかえましょう。いつでも好きなだけ飲めるようにたっぷり用意します。

エサやり

毎日やろう

毎日動物にあった種類と量の食べ物を与えましょう。食べ残しを置いておくと、くさって病気のもとになるで、できるだけ早く片付けましょう。

そうじ

毎日やろう

毎日そうじをしてきれいにしておきましょう。動物は、きたなかったりジメジメした場所では病気になりやすいので、床はできるだけ乾かしておきましょう。



給水器で、飲み口にボールが付いているタイプでは、ボールが固まる場合があります。水の入れかえの時にチェックしましょう。



注意!!

なれていないウサギをむりやりつかまえてブラッシングするのは事故のもとなのでやめましょう。



ブラッシングには、やわらかめの毛のブラシを使います。皮ふをいためないように、ゴムの突起が付いたブラシもあります。



体の手入れ

ウサギ、モルモットなどは一週間に一度くらいブラッシングしてあげましょう。(自分でなめて毛を飲み込んでしまうと、飲み込んだ毛が固まりになって病気になることがあります。)

爪は定期的に切ってあげましょう。

動物に名前をつけよう

みなさんの学校の動物には名前がついていますか？名前がついていれば一匹一匹のようすを観察して記録することができますし、病気やケガをしたとき、先生に「〇〇ちゃんのようなうすがおかしい」というふうに分かりやすく伝えることができます。もし、まだ名前がついていない場合は、かわいい名前をつけてあげましょう。

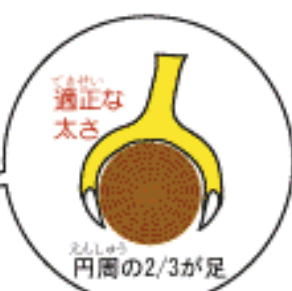
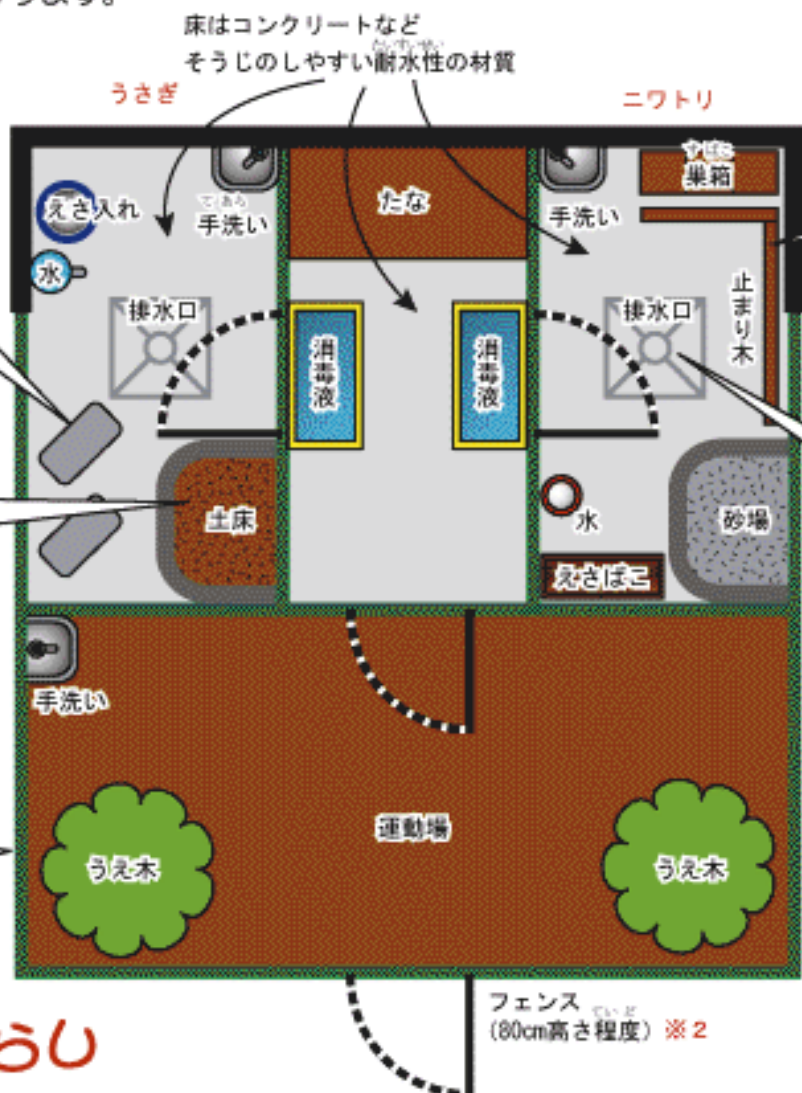
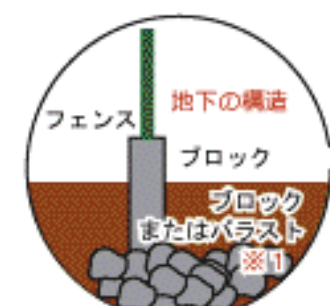
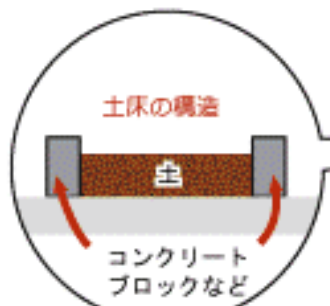
このような名札カードを作って、みんなの見えるところにはっておくのもいいでしょう。



なまえ：びよんた（オス）
生まれた日：〇〇年〇月〇日
毛の色：両耳とおしりが黒い
目の色：茶色
とくちょう：体が大きい。
気が強い。

飼育のヒント

もともとその動物がどういう暮らしをしているか（習性）を調べると、飼育する時にどのような環境が必要かがわかります。



外から他の動物が入りこまないように注意しましょう。

※1…地下からの動物の侵入を防ぐため。
※2…スズメなどの野鳥が侵入しない目の細かさとする。

ウサギの暮らし

◇穴を掘り巣をつくって暮らす動物です。
◇一生伸び続ける歯を持っています。

- 穴掘りの習性を満足させる
 - 土の床の部分を用意する。
- 穴の中で暮らす。
 - おちついてかくれられる場所を用意する。
- 歯が伸びすぎないようにする
 - かじり木を用意する。

ニワトリの暮らし

◇夜は肉食動物から身を守るために木の枝に止まって眠る生き物です。
木の枝に止まる
→高さ1メートルくらいの止まり木
握りやすい枝を選ぶ
→ちょうどよい太さの止まり木

あしやす
足休め



水鳥（アヒルなど）には足を休めるための清潔な水場が必要です。ウサギなどをコンクリートの床で飼育している場合は、土やかくれる場所が必要です。



飼育場所の管理

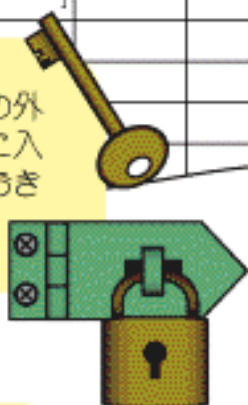
小屋の管理

正しく管理するためには、毎日のチェックが欠かせません。飼育日誌や観察記録をつけて、先生に確認してもらいましょう。

毎日のお世話表

月・日	飼育 年・組・名前	えさは やりましたか	水は かきましたか	やさいは やりましたか	みんな 元気でしたか
月 日	年 組				

カギをかけて学校の外の人が勝手に小屋に入らないようにしておきましょう。



観察記録は一匹ずつについて、それぞれ記録しましょう。



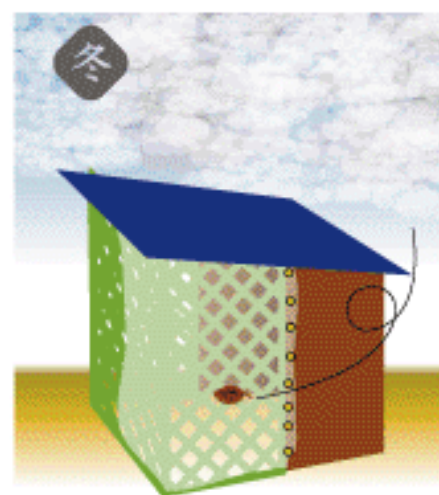
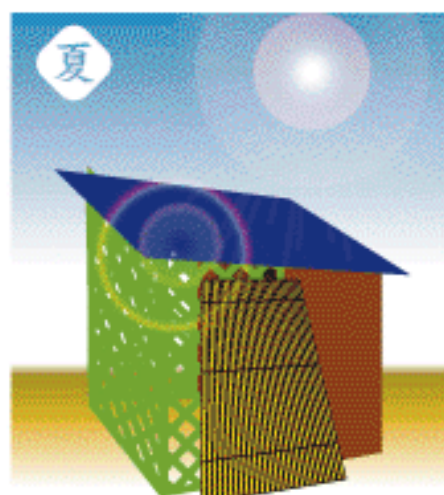
飼育小屋チェック表

チェックした日	月 日 (曜日)	天気	
チェックした人	年 組 []	気温	℃
床のようす	水たまりはありませんか	ない ・ ある	
	しめっていませんか	しめっていない ・ しめっている	
	うんちのかたまりはありませんか	ない ・ ある	
	下痢便はありませんか	ない ・ ある	
	おしっこがたまっていますか	たまっている ・ たまっていない	
えさ・水のようす	古いえさは残っていませんか	残っていない ・ 残っている	
	えさ箱はよごれていませんか	よごれていない ・ よごれている	
	水はよく飲んでいますか	飲んでいる ・ 飲んでいない	
	水のみ器はよごれていませんか	よごれていない ・ よごれている	
	水のみ器はつまっていますか	つまっていない ・ つまんでいる	
小屋全体のようす	とびらはきちんと閉まりますか	閉まる ・ 閉まらない	
	カギはきちんとかかりますか	かかる ・ かからない	
	フェンスに穴は開いていませんか	開いてない ・ 開いている	
	雨もりはしていますか	していない ・ している	
	小屋のまわりはきれいですか	きれい ・ きたない	

温度の管理

雨が吹き込まないように、また直接強い風や強い日差しが入り込まないように風よけ、日よけなどを工夫しましょう。

- ◇夏は日かげを作って風通しをよく、冬はすきま風が入らないようにしましょう。
- ◇温度計を置いて毎日小屋の室温を測りましょう。
- ◇動物のしぐさをよく観察して、暑がったり寒がったりしていないかを知るようにしましょう。(→8ページ)
- ◇梅雨の時期は特に風通しをよくして、ジメジメしないようにしましょう。



病気のサイン

ことばを話すことのできない動物たちは、病気やケガをしてもそれを伝えることができません。みなさんが気付いてあげられるように日ごろからよく観察しておきましょう。少しでもおかしいところが見られたら、すぐに先生に報告しましょう。

病気のサイン

耳がよごれていてくさいにおいがする

くしゃみをしたり鼻水が出ている

なみだや目やにが出ている

顔や体にはれているところがある

フシッ

頭がいつもかたむいている

ニワトリでよく見られる病気

- ・下痢（白色や緑色の形の悪いフン）
- ・卵詰まり（メスのみ）
- ・ハジラミ
- ・ケガ

元気がなくじっとしている

ウサギでよく見られる病気

- ・下痢（コクシジウムなど）
- ・スナッフル（くしゃみ、鼻水）
- ・毛球症（毛玉が胃に詰まる）
- ・皮膚病（糸状菌など）
- ・不正咬合（歯の伸びすぎ）
- ・斜頸（耳ダニなど）
- ・骨折・麻痺（落下など）
- ・腫瘍

このようになるとも病気のサイン！

- ☐ 毛並みが悪い
ボサボサでつやがない
抜けたり固まったりしている
- ☐ つめや歯が伸びている
- ☐ エサが残っている
- ☐ かたいものを食べなくなった
- ☐ やせてきた
体重が急にへった
骨が浮き出ている
- ☐ 羽や毛をふくらませている

人も動物も病気に ならないために

動物は人にうつる病気を持っていることがあります。おたがいに病気をうつさないために次のことを守りましょう。

（１）そうじの後や、動物にさわる前と後にはかならず手を洗う。

（２）こまめにそうじして、飼育場所はいつもきれいにしておく。



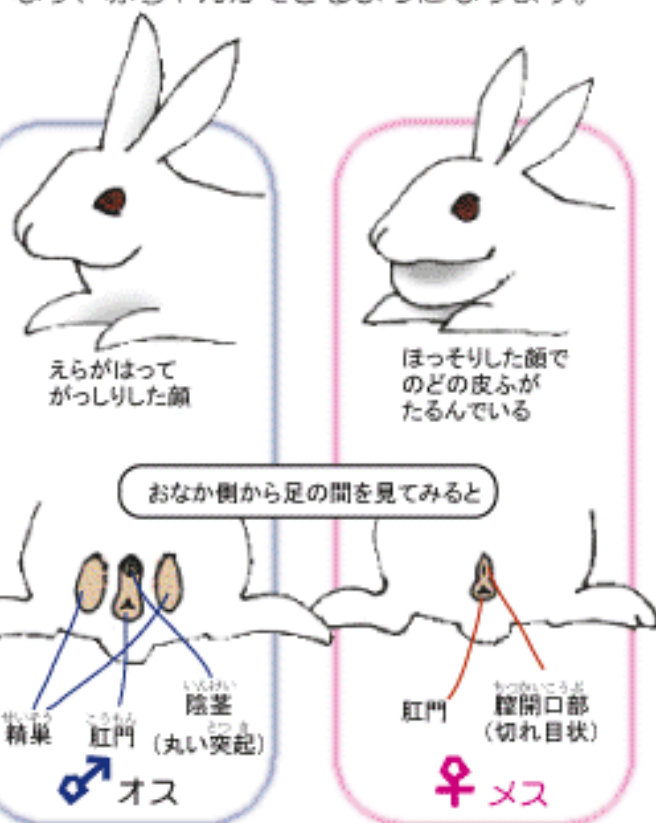
数をコントロールしよう

オスとメスを同じ場所で飼っていると赤ちゃんが生まれてどんどん増えます。数が増えすぎると管理が行き届きにくくなり、一匹あたりのスペースがせまくなるためケンカがたえなくなったりします。むやみに数が増えないようにコントロールしましょう。場合によってはオスとメスを分けて飼ったり、赤ちゃんのできない手術をする必要があります。

オスとメスの見分け方

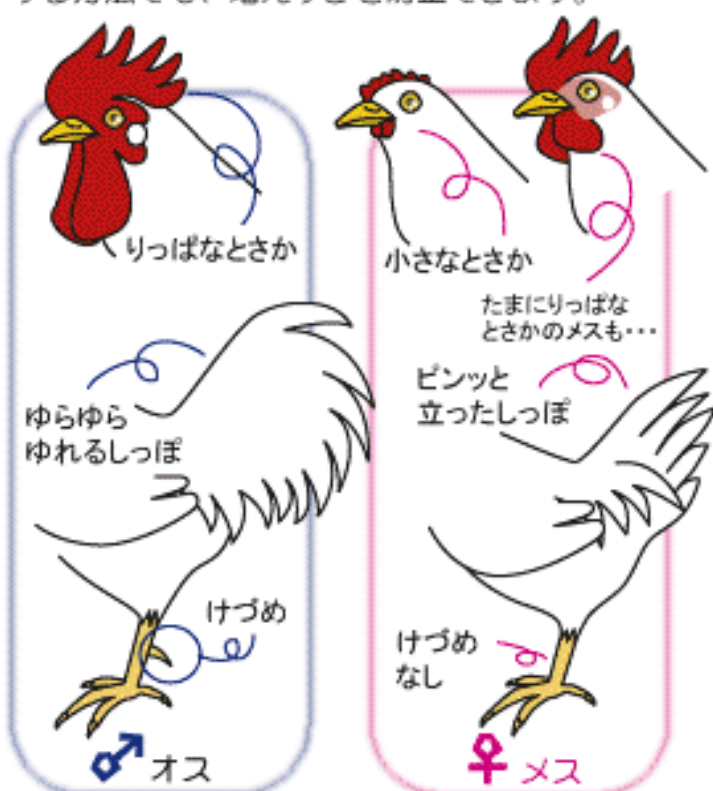
ウサギの場合

早ければ生まれてから4ヶ月～半年で大人になり、赤ちゃんができるようになります。



ニワトリの場合

ニワトリの場合、オスとメスを同じ場所で飼っていても卵がかえらなければ数が増えないので、メスが卵を産んだら、温め始める前に回収する方法でも、増えすぎを防止できます。



コントロールしないとどうなる？



ウサギの場合一度に平均7匹の赤ちゃんを産みま
す。メスウサギは一年で最大8回出産できるので
一匹のメスウサギから一年で56匹の赤ちゃんが生
まれることになります。
生まれた赤ちゃんも半年後には大人になって赤
ちゃんを産み始めるので、コントロールしない場
合、一年間で100匹以上!!もの赤ちゃんウサギが生
まれる可能性があります。

近づいてみよう・さわってみよう

小さな動物にとってみなさんの体はとても大きく見えます。追いかけたり無理やりつかまえたりするのはやめましょう。

近づくときの約束

1. 動物の横から
2. 自分の体を小さくして
3. 静かにゆっくり

さわるときの約束

1. そーっと
2. やさしく
3. 毛並みにそって

注意!!

ウサギの骨はとても折れやすいので、落としたり、力を入れて抱きしめたりするだけで骨折してしまうことがあります。



運ぶときには頭をひじのところでおおってあげるとよいでしょう。

だいてみよう

①皮をつかむ

首の後ろの皮をできるだけたっぷりと、しっかりつかみます。



できるだけ手を大きく開くのがコツです。

②持ち上げる

あばれるようなら、そっと下ろします。あわてて手をはなしてしまわないように注意しましょう。



おしりを丸めるようにささえます。

③完成

なるべく低い位置で自分の体にウサギをしっかりとくっつけ、やさしくだきます。



ウサギ

夜に活動が活発になります。**夕方**はエサを多めにあげましょう。

食べさせてよいもの

水分の多い野菜はくさりやすいので、食べ残しが出ない量をあげます。もし食べ残した場合にすぐに片付けましょう。



食べさせてはいけないもの

ウサギにとって有害な成分をふくむ野菜のほか、味付けをした料理やお菓子は体によくありません。



ニワトリ

暗くなると食べません。**明るいうち**にあげましょう。



水を忘れずに！

どんな動物でもいつでも新鮮な水が飲めるようにしておきましょう。



ウサギに水を飲ませると死ぬというのはめいしんです。特に水分の少ないエサをあげる時は、たくさん水を飲みます。



うまれと



いつまでも
いつまでも
とも
友だちだよ

おとな
大人になつと



どうぶつ
動物によって
成長のスピードは
ちがいますが
どんな動物も
かならず年をとって
いきます。

それぞれの動物に
それぞれの
時期に応じた
世話や食事が
必要になります。

とし
年をとる

